

「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会」のこれまでの流れ及び今後の進め方

第1期計画

第1ステージ(平成7年度ごろから)

- ヒアリング
⇒遊水地及び環境活動に対する市民の意識調査
- 現地活動及び活動内容の把握、
⇒任意による活動団体の活動内容の把握、各種団体による任意の活動(柴あげ、清掃活動、野鳥の会、植物研究会等)

第2ステージ(平成15年度年から)

平成16年1月
協議会設立

- 現状把握
⇒自然環境調査、既存資料収集
- 方針決定
⇒協議会を設立し、ワークショップ形式で「全体構想(平成19年3月策定)」、「実施計画(平成20年12月策定)」を作成

第3ステージ(平成20年度から)

平成20年12月
実施計画策定

- 協議会主導で、実施計画を基に現地活動を実施
⇒希少種の保全活動、外来種の駆除作業、観察会・環境学習等の市民への啓発活動、柴あげ等の地域の伝統活動等

<協議会の課題>

活動に着手し約5年経過したが、活動の進展が見られず、逆に活動する委員や団体が大幅に減少した。その結果、遊水地の自然環境が悪化していった。

<課題の要因>

- ・遊水地の維持管理がうまくできていない。(市民、企業、行政等との協働の仕組みができていない。また、行政側の財政が圧迫する中、予算確保がうまくいかない。)
- ・行政と市民との連携がうまくいっていない。(合意形成がうまく進まない。)
- ・少子高齢化が進んでいる。(遊水地で活動するNPO等の解散や減少、活動に関わる子供たちが減少している。)
- ・社会様式、周辺環境が変化している(里地里山にあった人と自然との良好な関わりの減少。市民の遊水地に関する関心が薄れている。道路整備や宅地化等、山の放置竹林化等。)
- ・環境の悪化により、悪化した環境にあった外来種が侵入、拡大している。
- ・気候変動(湿地の乾燥等による陸域化の進行。)

第2期計画

再第1ステージ(平成25年度から)

組織体制の
見直し

- ヒアリング
⇒自治会、学校、個人委員等への遊水地での活動、要望に関する意向確認
- 現地活動及び活動状況の把握
⇒活動団体の現地活動、各種団体の活動状況の把握(柴あげ、自治会の活動、湿地再生・植生管理部会、麻機湿原を保全する会、地域の庭等)
- ワークショップ
⇒活動内容の検討、現状の課題点等
- 市民への普及・啓発活動
⇒多くの市民に、麻機遊水地の自然環境の魅力を伝えていく(外来種駆除作戦、遊水地のいきもの探し等)

再第2ステージ(平成25年度から)

- 組織の再構築
⇒市民、企業を主体とした、自立した組織の構築
- 行政主体のイベント・現地活動(全工区)
⇒行政や各種団体による活動(外来植物駆除、ハスの保全、柴あげ漁、クリーン作戦等)

新第3ステージ(平成26・27年度)

実施計画の
見直し

- 行政主体によるイベント開催
⇒イベント実施、活動支援・実施、企業・団体との連携、企画書・申請書等の作成等
- ・ワークショップによる、活動内容の検討・実施、実施計画書の見直し等

新第4ステージ(平成28・29年度)

- 行政の支援
⇒企画書・申請書等の作成支援、活動・イベント等の支援、企業の紹介等
- ・協議会、地元、企業中心のワークショップによる、活動内容の検討・実施(現地活動、イベント等)

協働による協議会主体の運営、現地活動の推進

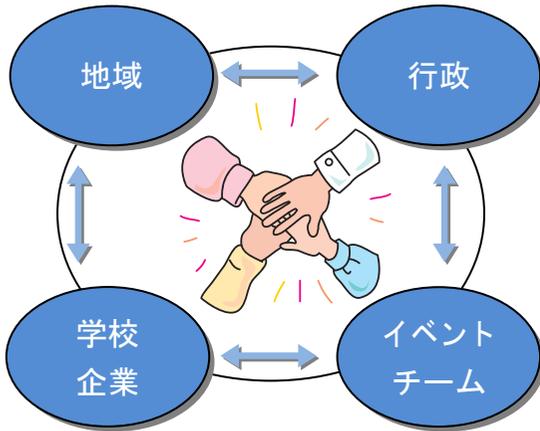
麻機遊水地自然再生協議会の活性化作戦

■人のつながりを再生することから始まる自然再生

麻活

様々なイベントを通じて、麻機遊水地の魅力を市民に伝え、ネットワークの構築、強化、活動の活性化を図り、『麻機を元気』にする。

■協働のイメージ図



『麻機を中心とした、つながりの強化』

<H26 年度の実績>

- 第3工区において、日本へら鮎釣研究会による釣り大会、釣りのマナー講座の開催 (4/19)
- 第4工区の池の森で、植樹をするための寄付を募集し、国際ことば学院外国語専門学校、国際ことば学院日本語学校の生徒によるシダレザクラの植樹を開催 (5/17)

■協働による効果と主な取り組み内容

地域	自治会、町内会、地域住民、各種団体、地元農家 等 ○ボランティア活動の参加・寄付などを通じて、地域貢献・地域への愛着向上、環境改善・生活の質的向上、地域住民の自立を目指す。 ⇒除草作業、保全活動、行政に対する情報提供（問題点、地域要望等）、市民への情報発信 等
学校企業	静岡北支援学校、静岡中央支援学校、静岡大学、東海大学、常葉大学、観山中学、麻機小学校、企業、組合、農協 等 ○北・中央支援学校：地域と協働した教育・活動による、社会貢献活動の推進、地域交流、自然再生事業の活性化、地域の活性化を目指す。 ⇒ハスの栽培、放置竹林の間伐・発生材の利用、除草作業、遊水地のパトロール、広報活動 等 ○企業：企業のCSR活動の場としての利用し、市民に対する企業理解の促進による企業のイメージアップ、異分野とのネットワーク構築を図る。さらには、社員の地域貢献活動参加による教育を図る。 ⇒現地活動、協議会への助成金・資材・人材等の支援 等
イベントチーム	レクリエーション・イベント企画部会と共通の趣味を持った市民、遊水地利用者（釣り人、野鳥観察、スポーツ利用者 等） ○人を呼び込むためのイベントを企画して、市民への麻機遊水地の自然環境の魅力を伝える。また、新たな活動者の募集・人材育成を行い、利用者のマナー・環境保全に対する意識向上を図る。 ⇒外来種駆除、釣り大会・釣りのマナー講座、竹灯籠、写真コンクール、お散歩観察会、環境学習、さわやかウォーキング、フリーマーケット、クラウドファンディング、シューティングスター 等
行政	静岡県、静岡市 等 ○地域との連携を強化し、福祉・環境分野等の事業を推進していく。さらには、行政の予算が削減されているなか、地域住民や企業の参加による効果的な事業の実施、地域や地域経済の活性化を図る。 ⇒地域住民の要望に対する総合的な支援、助成金・企画書等の申請に関する支援、活動の運営に関する情報提供、企業の紹介 等